経営比較分析表（令和4年度決算）

岡山県　新見市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	64.54	93.68	3,740	

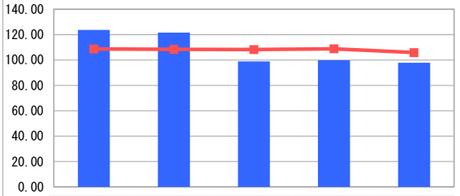
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
27,244	793.29	34.34
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
25,193	271.78	92.70

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【108.70】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	123.79	121.58	98.92	99.76	97.84
平均値	108.76	108.46	108.35	108.84	105.92

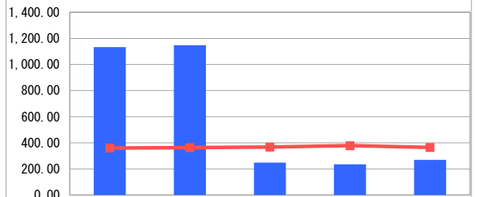
②累積欠損金比率(%)

【1.34】

	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	7.48	11.94	3.98	6.02	7.78

③流動比率(%)

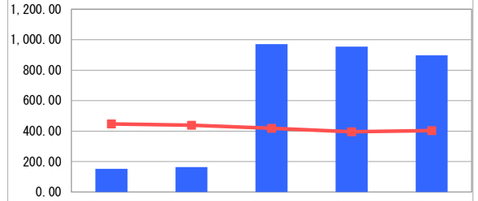
【252.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	1,133.09	1,147.06	248.29	235.33	268.65
平均値	359.70	362.93	367.55	378.56	364.46

④企業債残高対給水収益比率(%)

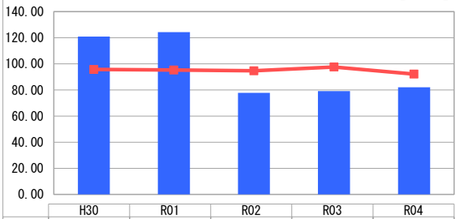
【268.07】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	152.76	163.64	971.52	955.28	897.72
平均値	447.01	439.05	418.68	395.68	403.72

⑤料金回収率(%)

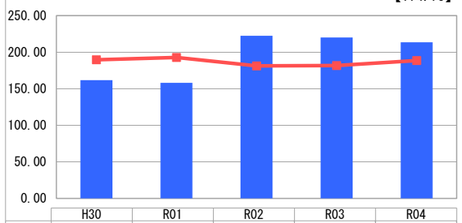
【97.47】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	120.99	124.28	77.86	79.15	82.06
平均値	95.81	95.26	94.78	97.59	92.17

⑥給水原価(円)

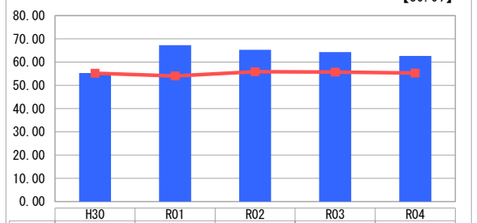
【174.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	161.77	158.01	222.47	220.03	213.52
平均値	189.58	192.82	181.30	181.71	188.51

⑦施設利用率(%)

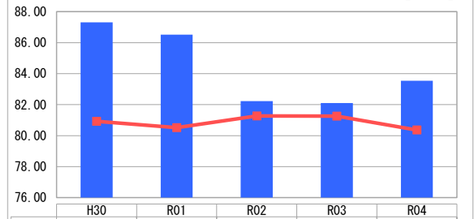
【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	55.32	67.34	65.35	64.36	62.66
平均値	55.22	54.05	55.89	55.72	55.31

⑧有収率(%)

【89.76】

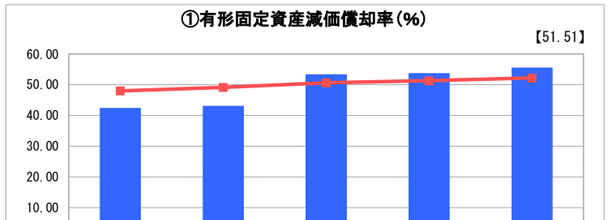


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	87.31	86.52	82.23	82.10	83.54
平均値	80.93	80.51	81.27	81.26	80.36

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

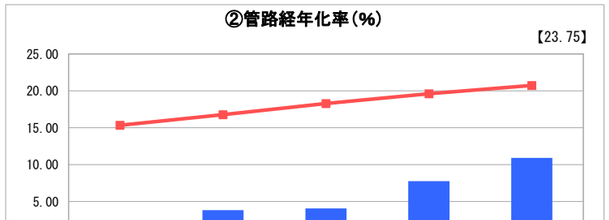
【51.51】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	42.42	43.13	53.35	53.77	55.53
平均値	47.97	49.12	50.63	51.29	52.20

②管路経年化率(%)

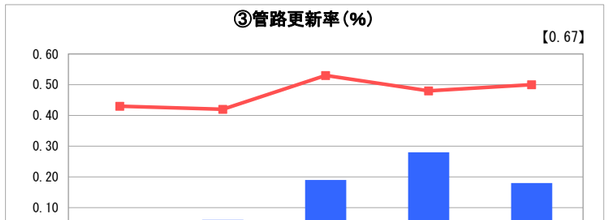
【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	3.82	4.07	7.77	10.92
平均値	15.33	16.76	18.28	19.61	20.73

③管路更新率(%)

【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.06	0.19	0.28	0.18
平均値	0.43	0.42	0.53	0.48	0.50

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①　経常収支比率は、簡易水道事業との経営統合により単年度の黒字を示す１００%を下回っているが、令和５年度・令和６年度に予定している料金改定で改善すると見込まれる。
②　累積欠損金は発生していないが、簡易水道事業との経営統合により、施設維持管理経費が増加したため、より一層の経営活動の効率化に努める。
③　簡易水道事業との経営統合により企業債の償還額が著しく増加することで流動負債が上昇し、流動比率は大幅に低下しているが、企業債残高の減少に伴う流動負債の減少により、全国平均を上回った。
④　企業債残高対給水収益比率は、簡易水道事業の統合により大幅に上昇し、全国平均・類似団体平均を上回っているが、企業債残高の減少により、年々減少している。
⑤　料金回収率は、簡易水道事業との経営統合後も令和４年度まで料金体系を据え置いていることにより、基準の１００%を下回っている。令和５年度・令和６年度に予定している料金改定で改善すると見込まれる。
⑥　給水原価は、簡易水道事業との経営統合により大幅に上昇し、全国平均・類似団体平均を上回っている。
⑦　施設利用率は、全国平均・類似団体平均を上回っているが、近年減少傾向にあるため、施設の適正規模を勘案し、引き続き、施設の統廃合等に取り組む。
⑧　旧簡易水道区域について、布設から４０年以上経過する管路が増加しており、頻繁に漏水が発生している。今後も管路更新、漏水調査・修繕を積極的に実施し、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

①　老朽化の状況は、数値が１００%に近いほど法定耐用年数に近いことを表している。簡易水道事業との統合により、令和２年度以降の数値は、全国平均・類似団体平均を上回っており、順次施設の更新を行っていく必要がある。
②　管路経年化率は、全国平均・類似団体平均を下回っているが、法定耐用年数に近い管路もあることから、順次更新を行っていく必要がある。
③　管路更新率も全国平均・類似団体平均を下回っているが、法定耐用年数に近い管路もあることから、順次更新を行っていく必要がある。

全体総括

今後の事業運営において、これまでの水需要動向等を勘案すると、給水収益が減少傾向で推移するものと見込まれる中、施設の更新及び企業債の償還等があり、今後の経営状況は、依然として厳しいものとなっている。
また、簡易水道事業との経営統合により、一時的に数値は悪化したが、令和５年度・令和６年度に予定している料金体系の見直しや、設備投資を計画的に実施することで、緩やかに、長期的に改善していけるよう努めたい。